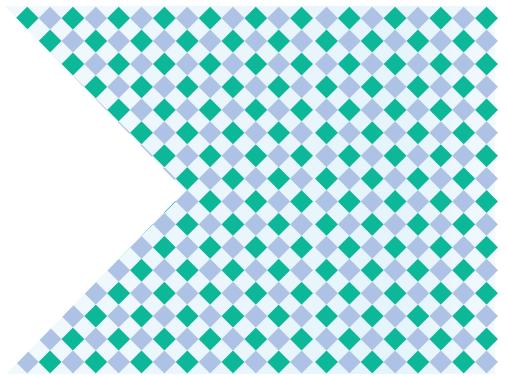


GPN

Column

グリーン購入ネットワーク コラム Vol.9



アフターコロナの持続可能なサプライチェーン管理

安藤 光展

(サステナビリティ・コンサルタント)

■アフターコロナのサステナビリティ・トレンド

新型コロナウイルス感染症(以下コロナ)の本格的な蔓延から1年以上が経ったが、いまだにコロナ禍が続いており、大きな打撃を受け続けている企業も多い。執筆時点(2021年3月)では、2021年7月から開催予定の東京オリンピック・パラリンピックの開催可否やワクチン接種などの詳細予定がまだ見えておらず、2021年も引き続きコロナ対策を優先した施策に追われることになりそうだ。

そこで、サプライチェーン管理(以下SCM)やサステナビリティ推進の担当者が気になるのは「アフターコロナのサステナビリティ・トレンド」だろう。まずは、この1年の社会や企業の動き、グローバルトレンドなど踏まえて、日本企業向けに以下の5つのテーマにまとめたので参考にしていただきたい。

< 1. DXの浸透 >

SCMのデジタル化、関連業務全般のデジタル化、サステナビリティ情報開示のデジタル化、ステークホルダー・エンゲージメントのデジタル化、デジタルデータのセキュリティ強化

< 2. 働き方改革の促進 >

テレワークの推進、業務コミュニケーションの改善、オフィスのレイアウト再考、新たな労務管理システムの導入、業務評価制度の変更、労働安全衛生の強化(感染対策)、ウェルビーイング/健康経営のさらなる追求、人権対応の再定義

< 3. ビジネスモデルと戦略の変更 >

中長期戦略/中期経営計画の見直し、リスクと機会の再考、ビジネスモデルとマテリアリティの見直し、理念体系の整理(パーパス、ミッション、ビジョンなど)

< 4. 新たな課題の顕在化 >

顕在化するコロナの影響を受けた新たな社会課題への対応、業績悪化による推進活動の保留(人員削減)、ステークホルダーからの社会的ニーズと事業活動のギャップ解決、柔軟な雇用創出

< 5. 価値向上施策の修正と強化 >

従業員のサステナビリティ意識づけと社内浸透、開示情報の充実、情報管理システムの見直し、幅広いステークホルダーとの対話、財務基盤の再構築、競合企業を含むサプライチェーン上のパートナーシップの強化

サステナビリティ分野の変化したテーマ、これから変化するであろうテーマだけを見ても、非常に広範囲であり、企業担当者としては悩ましいところである。変わってしまった社会を嘆いてばかりもいられないので、社内のさまざまな部門と協議し、社会変化への対応や情報開示を行うべきである。

■アフターコロナのSCM

前述した2020年からの社会変化を読み取り、アフターコロナのトレンドを見通すと、今後のSCMには大きく3つのポイントがあると考えている。「デジタル化」「人権・労働慣

[続きはGPN会員専用ページからご覧いただけます。](#)